



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成30年11月

うるわし通信

必要な情報は自ら取りに行く

50年に1度の記録的豪雨による西日本豪雨災害さらに、巨大台風の上陸と立て続けに大きな災害が起きました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。気象庁によると、日本へ上陸する台風は年間約2.7個ですが、今年はすでに5個が上陸しています。

『日本近海の海面水温が高いため、台風〇〇号は強い勢力を維持したまま上陸する見込みです』と、この言葉を何度も聞きました。今後、日本を襲う豪雨や巨大台風はさらに多発し、その被害規模も甚大なものとなっていく事は明かです。ここだけである調のため、多発する自然災害の発生を無くすことは出来ませんが、その被害を少なくすることは出来ます。それが「減災」です。

＊地震、津波、風水雪害、火山噴火などの巨大災害に対し、災害を防ぐ（防災）のではなく、被害がでることを前提にして、それをできるだけ少なく抑えるという概念。被害を完全になくすのは困難であるが、最小限にとどめることは可能で、そのための常日ごろの備えや取り組みこそが重要であると考えられています、それでは、どうすればいいのか、「必要な情報は自ら取りに行く」ことが必要です。

観測予測技術の進歩により様々な防災気象情報が提供されるようになりました。自宅近くを流れている河川の氾濫の危険度を知るには、気象庁が発表している「洪水警報の危険度分布」があります。各自治体が公表している「洪水土砂災害ハザードマップ」を調べれば、自宅の近辺で土砂災害や浸水が予想されているのか判ります。

台風21号が桜井市へ接近時に、筆者は消防団活動で市内巡回警戒を行っていましたが、各避難所へ多くの人々が避難されているのを目の当たりにしました。

『特別警報が発表されました、命に関わる非常事態です。ただちに地元市町村の避難情報に従うなど、適切な行動をとって下さい。』この言葉も何度も聞きました。自分が住む地域は、どのような災害が予測されているのか、平常時から確認していれば、突然この言葉を聞いても正しい行動を取れます。災害時に備えて自らの状況を理解して、判断することが自分や家族や身近にいる人を守ることに繋がるとは違いありません。



＊洪水警報の危険度分布 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

＊桜井市洪水土砂災害ハザードマップ(桜井市役所 都市建設部土木課管理係で入手できます)

<http://www.city.sakurai.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/7/kmap0501.pdf>

【編集部 ひがし 俊克】

土舞台顕彰事業おこなわれる

例年秋の訪れとともに開催されている、第47回土舞台顕彰事業が去る10月13日（土）午後、桜井公園内の土舞台で実施されました。土舞台顕彰は、聖徳太子が西暦612年（推古天皇20年）、「呉の国（古代中国）に伎楽の舞を学んだ」百済人の味摩之^{みまし}より、少年を集めてこの舞を習わせたと「日本書紀」にある記述から、本市出身の保田與重郎氏の提唱で昭和47年に 顕彰碑が建立されたことに始まりました。

除幕式では、四天王寺の舞楽「蘭陵王^{らんりょうおう}」の奉納や、ノーベル賞受賞の朝永振一郎博士や森繁久彌氏をはじめ当時の代表的な文化人・識者・芸能人らが参列されました。



土舞台顕彰碑

嘗^{かつ}ては、「芸能発祥の地」としての桜井を紹介するために、箒能^{かがりのう}が桜井

小学校の運動場で野外能が上演されて来ていましたが、市民会館開館後は、そこを会場として能・狂言・そして謡の発表などが30年間おこなわれていました。その後、初瀬川河川敷（金屋）での万葉まつりの会場で万葉集の朗誦「万葉うた語り」や古代服パレードの実施や、図書館での伎楽^{ししふんじん}「獅子奮迅」の上演などもおこなわれて来ました。

そして5年前から、シルクロードを通じた国際的な文化の交流を広く多くの方々に楽しんでもらうために、ユーラシアアンサンブルという音楽イベントが継続しておこなわれています。

当日の『顕彰大祭』には、関係者の皆さんや地元自治会関係者や市民の方々の参加で進行され、その後、ユーラシアアンサンブルの公演となりました。この2年間は天候に恵まれず飛鳥学院ホールをお借りしての開催でしたが、今年は秋晴れの下での開催となりました。



ユーラシアアンサンブルの演奏

現在、桜井公園は地元の「ボランティアの会土舞台」の取組で、整備が進められており、高台にあることから大和盆地を見下ろす展望台として、また散策路としても知られるようになっていきます。



除幕式の様子



市民会館での能



図書館での伎楽

電動レンタサイクル事業『桜eチャリ(さくら イーチャリ)』がスタート

歴史を感じるまち・桜井の秋を、電動サイクルで快適にめぐろう！と桜井市の新しい観光ツールとして電動自転車の導入実験が行われています。

実施期間は10月20日（土）～11月25日（日）までの行楽シーズンで、市内の社寺を中心とした紅葉スポット巡りや、ハイキングでは何度も訪れた所も、電動自転車で周ることで広域的に時間短縮も可能で、その時間を訪問先での時間の活用や、美味しいものを食べたり見つけたりすることに使えます。（もちろん、桜井を出て周辺の観光地訪問もOK）

また、電動自転車なので少しぐらいの坂道でも、スイスイ快適に行くことも可能です。

使用料は1日単位で1,500円 利用時間は朝9時から夕方5時まで。

貸出場所は、近鉄桜井駅北口のコンビニ東側のサンフラワーレンタサイクルです。

但し、この自転車は携帯電話のスマホでの事前登録が必要です。使用料もカード払いで引落しされると、自転車のロック（鍵かけ）もスマホで行なうことになっています。

その点で若干制約がありますが、このような方法での市内散策・観光地巡りが全国各地で広がっています。金沢市の観光地巡りや奈良市内でも行われるようになって来ました。

桜井の観光地は、市内に広がっているため観光タクシーの利用が「桜井ブランド」として認定されています。

今回電動自転車で観光地を巡る事業の導入実験は、公共交通機関であるバスの便数が減ってきていることから、代替の方法の1つとして、どの程度のニーズがあるかを調査することも含めて行われるものです。

桜井をよく知っておられる方々も、秋の行楽シーズンに電動自転車で周ってみることをされてはどうでしょうか。市外の知人友人にも、この取組みがおこなわれている時に、桜井を訪問する機会にされることをお勧めします。

（編集子）

電動レンタサイクルで
楽チン・快適に秋の冒険できちゃう!
桜eチャリ!
さくらイ〜
期間限定
「2018年10月20日(土)
~11月25日(日)」
11/20~11/26 紅葉ライトアップ
長谷寺
とみ 等彌神社
10/14 ~ 12/3 もみじまつり
大神神社 安倍文殊院
柿の葉寿司 草もち
他にもまだまだ、見どころ
美味しいものたくさん
奈良 桜井市
桜井市おもてなし仕組みづくり協議会（一般社団法人桜井市観光協会内）
〒633-0063 奈良県桜井市川合 260-2 TEL/FAX 0744-42-7530
詳しい情報はこちら
携帯電話のQRコードに協力ください

まほろば国際音楽祭特別記念公演

日 時 11月4日(日)13:00～

場 所 桜井市民会館大ホール

第1部 奈良県立桜井高等学校合唱部

第2部 源田俊一郎「ふるさとの四季」指揮：中村貴志

第3部 G. フォーレ「レクイエム」作品48 指揮：シュテファン・モア

ソプラノ：山本昌代 バリトン：山川大樹

合唱：まほろば国際音楽祭記念合唱団（合唱指揮：庵前通世）

ザルツブルク・モーツァルト合唱団

ベルヒテスガーデン・聖アンドレアス合唱団

管弦楽：テレマン室内オーケストラ

問い合わせ先 まほろば芸術ラボ TEL：0743-75-8487



玉鬘神社創祀

日 時 11月10日(土)10:00～

場 所 玉鬘神社(桜井市初瀬 連歌橋を渡って左手)

● 玉鬘庵尼墓供養

● 朗読『源氏物語』「玉鬘」より

● 講演「椿市と初瀬の古代-雄略天皇と天武天皇」

講師：千田稔(奈良県立図書情報館館長)

● 歌曲「玉かずら」「やまとは国のまほろば」

歌：吉桑道子 ピアノ：宮川真由美

問い合わせ先 玉鬘神社創祀の会 TEL：0744-55-2300



お知らせ

● 図書館友の会

11月の読書会は、先月に続き「生権力の歴史」小松美彦著です。

なぜ脳死が人の死とされるのか。なぜ尊厳死が推進されるのか。「人間の尊厳」の系譜を、ギリシア哲学やキリスト教神学からたどり直し、生権力の淵源に迫る。

日 時 11月27日(火)13:30から

場 所 コミュニティーカレッジ 知の森 (近鉄大福駅から北西へ100m)

この本を数回に分けて読みます。希望者はテキストを事前にお申込みください。

問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 「光陰矢の如し」と言われるが、今年もあと2か月を残すのみ。今年は地震・台風・豪雨災害が相次いで発生し、地域のコミュニティー力が一層必要となっている。少子高齢化が一層進んでいる一方で、地域の秋まつりなどを通じた子ども・青年・壮年・老年層のつながりを、地域の活性化にどのように活かしていくかが問われる2019年・ポスト平成時代を迎えるのも、あと半年ばかりとなった。共に論議し考え創りたいと思う。(K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL:090-1678-9157